

校長からのメッセージ

鶴嶺高校のホームページをご覧ください、ありがとうございます。

校長の小松原です。本校は、昭和 50 年（1975 年）に最初の入学生を迎え入れ、今年 4 月に第 52 期生を迎え入れることになりました。令和 8 年度も神奈川県から「グローバル教育研究推進校」の指定を受け、「国際的な視野を持ち、自主性と高い人権意識を身に付けた」生徒の育成を学校教育目標として、保護者・地域と連携しながら取り組んでいます。



その学校教育目標を実現するために、鶴嶺では様々な教育活動を実践しています。学校の教育活動は、「グランドデザイン」というものにまとめられ、このホームページに掲載されています。「グランドデザイン」には、グローバル教育、学習支援・進路支援、学校行事・部活動という 3 つの軸があり、鶴嶺高校ではこれらの「軸」を中心とした取組みを重点的に行っています。

【グローバル教育～「英語によるコミュニケーション能力の育成」～】

今、世界は予測困難で不確実な状況で、日本では信じられないことが、身近な国々で合法的に行われています。グローバル化したこの社会では、その影響はすぐに伝わってきます。そして、グローバル言語として英語は世界中で話されています。つまり、この社会に生きる私たちにとって、英語は「身を守るためのツール」ということが言えます。

鶴嶺では、特に英語で話す力・書く力を伸ばすために、全学年の授業で「英語パフォーマンステスト」を実施しています。また、1、2 年生全員は、校内の英語スピーチコンテストに参加しています。この他にも外部検定試験の受験など様々な取組みを行い、生徒の英語力を育成しています。

【学習支援・進路支援 ～「深い学びにつながる授業」～】

英語以外の教科も、この予測困難で不確かな社会を生き抜くための「ツール」であると言えます。生徒には「興味があるものについて質問することや、知りたいことを掘り下げて調べること」を奨励しています。グローバルスタディーズという総合的な探究の時間では、生徒は世界の諸課題と関連したテーマについて、その解決方法などを考えます。最終的にその成果を研究報告書にまとめ、優れたものについては、全校でのプレゼンテーションを通して、他の生徒とその内容を共有しています。

【学校行事・部活動 ～「学校行事等を通じた豊かな学び」～】

学校行事には、文化祭や体育祭のほかに、「ワールド・スポーツ・フェスティバル」という本校独自の取組みがあります。これは、コロナ禍で国際交流活動が制限されていたとき、「鶴嶺の国際の灯を消したくない！」と、国際交流委員の生徒が提案・実現したもので、キンボール、モルック、アルティメット、ボッチャ、トゥホといった世界のスポーツを生徒が楽しむものです。こういった学校行事などは、可能な限り生徒が運営し、その中で、多様性を認めて他を思いやる姿勢を身に付けています。

ここで、令和8年度入学式と始業式で校長のことばとして、生徒に送ったメッセージを紹介します。

1. 本校の誇りと、今この瞬間の価値

新しい学期が始まりました。校内を歩けば、部活動に汗を流す元気な声が響き、行事に向けて一丸となる皆さんの姿があります。文武両道を地で行くこの活気こそが、我が校の誇りです。しかし、今日、皆さんに改めて問いかけたいことがあります。それは、「なぜ、私たちはこの教室で授業を受けるのか」ということです。部活動も行事も、皆さんの人間性を豊かにする大切な要素です。しかし、そのすべての活動の根底にあり、皆さんの「一生」を左右する真の土台は、日々の「授業」に他なりません。

2. 「今、勉強するかどうか」が一生を決める

今、この瞬間、目の前の学びにどれだけ真剣に向き合うか。それによって、5年後、10年後、皆さんが選べる選択肢の数は劇的に変わります。勉強とは単なる知識の暗記ではありません。「未知の課題に対して、どう思考し、どう解法を見出すか」という、社会に出た後に最も必要とされる力を訓練しているのです。今、楽な道を選び、授業をおろそかにすることは、将来の自分が掴めるはずだったチャンスを、自ら手放しているのと同じです。授業はすべての基本です。この50分間に、自分の人生のすべてを懸ける。その覚悟を持ってください。

3. 「授業」という種を、「復習」で大樹にする

しかし、授業を一生懸命受けるだけでは不十分です。授業で得た知識は、いわば「種」の

ようなものです。そのまま放っておけば、すぐに枯れて忘却の彼方へ消えてしまいます。その種をしっかりと根付かせ、皆さんの血肉とする作業、それが「復習」です。高い壁を越え、さらにその先を目指す皆さんに求められるのは、これまでの「当たり前」を一段階引き上げることです。

「1日以内、1週間以内、1ヶ月以内」という3回の復習は、脳に記憶を定着させるための最低限のルールです。そして今、この伝統的な手法に、皆さんの手元にある Chromebook、つまり「AI」という強力なエンジンを掛け合わせる時が来ました。

4. AI を活用した「攻め」の復習法

AI を単なる「答え合わせの道具」にしてはいけません。AI を皆さんの思考を深める「伴走者」にするのです。

第一に、AI を「ソクラテス」にしてください。

わからない問題に出会ったとき、すぐに答えを求めてはいけません。AI に「答えではなく、ヒントを段階的に出して」と指示し、対話しながら自力で正解を導き出す。その「悩むプロセス」こそが、一生モノの思考力になります。

第二に、AI を「教え子」にしてください。

今日習ったことを、AI に向かって説明してみてください。そして「私の説明に論理的な飛躍はないか？」と問いかける。AI からのフィードバックは、自分でも気づかなかった理解の「穴」を鮮明に映し出してくれます。

第三に、AI を「出題者」にしてください。

ノートやプリントを Chromebook のカメラで撮り、AI に「授業内容を確認する小テストを5問作って」と頼めば復習がはかどります。そしてさらに「入試に出そうなひねった問題を3問作って」と頼む。受動的に覚えるのではなく、出題者の視点に立つことで、学びの質は劇的に変わります。

5. 君たちの「一生」を応援する

皆さんの持っている Chromebook は、遊びの道具ではありません。皆さんの人生を切り拓くための「最強の武器」です。部活動に全力を尽くし、行事に熱狂してください。しか

し、その情熱を、まずは日々の「授業」と、それを完璧にする「復習」に注いでください。「今、やるべきこと」から逃げずに立ち向かう。その積み重ねが、皆さんの一生を輝かせる確かな力になります。

これからの1年、皆さんがAIという知恵を借りながら、自分自身の限界を突破し、素晴らしい未来を自らの手で掴み取ることを期待しています。一緒に頑張りましょう。

令和8年4月 校長 小松原義徳